

「諦めなかった大空への夢」

11年がかりで夢を叶えたANA女性パイロット小林郁子さん

小林郁子さんは24歳の時に「絶対パイロットのなる」と決めてから11年がかり、現在エアセントラル副操縦士として活躍しています。ANAグループには約2千名の操縦士がいますが、女性は6名だけで小林さんはその第1号だそうです。小林さんの言葉を要約しました。

飛行機の操縦士を目指したのは、マスコミ業界で働いていた時、飛行クラブに所属している友人から、小型機のフライトに誘われたのがきっかけです。たった2、3分の体験でしたが「絶対パイロットになるんだ」と思うようになりました。自力で免許を取得するためには1千万円のお金と猛勉強と厳しい訓練が必要です。休日返上で働いて資金をため、寸暇を惜しんで勉強をし、厳しい訓練にも耐え抜きました。本当にやろうと思えば、誰にでもできることだと思うんです。「ああなりたい」とか「こうなれたらな」と口にされる方は大勢いらっしゃると思います。でも行動に移さない方が多いんです。だから「本当になりたいと思っているの?」と感じてしまうんです。「こうなりたい」という思いが本当であれば、そのように自分で行動していくと思うんです。そうしなければただの願望で終わってしまうし、夢に近づくことだってできないと思います。

だから特別なことは何も必要なくて、夢をかなえるために自分が今何をしていかななくちゃいけないか。それを自覚して行動に移せる人は夢を実現できると思います。もちろん、そうなるためには大変なこともいっぱいありますが、それを乗り越えられる精神力と行動力、そしてその夢に対する思いがどれだけ強いかなですね。

私の部屋に、「最初からうまくやれる人はいないんだからさ」と書かれたポストカードが置いてあります。やっぱり初めから成功する人なんていないんです。うまくいかず落ち込んだりもするけれど、落ち込むだけではだめなんですね。どうしたらうまくできるかを常に考える工夫をしていかなければいけないんです。

もう一つ大切なのは、諦めないことですね。何をやるにせよ本人が「もうダメだ」と思った時点で終わりなんです。パイロットとして危険なこともたくさんありますが、事故が起きても極限状態の中で被害を最小限に食い止める最大限の努力をすることがパイロットの責務です。これからも困難なことが沢山あると思いますが、何があっても屈することなく、夢を追い、自分自身に挑み続ける人生を送りたいと思っています。(「致知」2008.7月号)

私にも夢がありますが、小林さんの言葉を聞いて、まだ志の強さが足りないのだと感じています。「夢は叶えるためにある」という言葉があります。皆さんがこれからどんな夢を持ち、それを実現させるためにどのような努力していくかが楽しみです。

「心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる」この言葉は、松井秀喜の恩師である山下智茂さんの言葉として、今でも石川県星稜高校野球部のロッカーの壁に貼ってあるそうです。まず志を高く持ち、行動し、それを継続していくことが、自分の習慣や人格、運命までも変えていくのだと思います。